

郷土学習資料集

# 大熊町

第二次改訂版



令和5年3月  
大熊町教育委員会



# まえがき

東日本大震災とそれにともなう原子力発電所の事故から12年が過ぎました。大熊町民は、全町避難となりましたが、平成23年4月に熊町幼稚園、大野幼稚園、熊町小学校、大野小学校、大熊中学校を会津若松市で再開しました。そして、全町避難から11年が過ぎた令和4年4月には熊町小学校、大野小学校、大熊中学校を統合し、義務教育学校「学び舎ゆめの森」を開校しました。令和5年4月には「学び舎ゆめの森」が大川原地区に戻り、認定こども園の開園とともに大熊町内で再開します。

大熊町では、以前から読書活動やふるさと教育に力を入れて取り組んでいましたが、現在、AIを活用した教科学習や社会的課題の解決に向けた探究的な学習の充実など、変化がはげしい時代、みなさんが自分の未来を切りひらいていくことができる教育を進めています。

今回の郷土学習資料集の改訂は、大熊町の歴史や土地の様子、産業に加え、原子力発電所の事故後の町の復興の様子についてもものせています。

みなさんが学校の授業で使用するだけでなく、現在の大熊町の課題やこれからの大熊町の未来を考える参考資料としても活用してほしいと思います。この資料集は、いつでも、だれでも活用することができるように町のホームページにもものせています。

一人一人の多様な幸せと社会全体の幸せの実現が求められる時代に、この大熊町、福島県、日本、世界がどのような姿になればよいかを考え、その実現に向けて行動できる人に大きく成長してくれることを願いまえがきといたします。

令和5年3月

大熊町教育委員会教育長職務代理者 松岡 保夫



# 目 次

1	わたしたちの町 大熊町	
(1)	町章とその由来	1
(2)	大熊町の花・木・鳥、町民憲章	1
(3)	大熊町の位置	2
(4)	大熊町の土地のようす	
①	大熊町土地利用	3
②	学校のまわりのようす	4
(5)	大熊町の人口の変化	5
2	原子力発電所事故のようす	
(1)	大熊町の原子力発電所～東京電力福島第一原子力発電所～	6
(2)	事故の影響	
①	事故によりすべての町民が避難	6
②	空気の汚染	8
③	海の汚染	8
3	避難先にある大熊町のしせつ	9
4	原発事故前の豊かな自然を活用した大熊町の農業、水産業	
(1)	農業	10
(2)	水産業	12
5	大熊町の歴史	14
6	大熊町の文化財や伝統行事	
(1)	古い家	20
(2)	古い道具	21
(3)	地域の文化財や伝統行事	
①	地域の文化財	24
②	地域の伝統行事	26
7	きょう土を開く	
(1)	助宗の堤	28
(2)	報徳仕法と大熊町	29
8	大熊町の小・中学校の歴史	
(1)	旧熊町小学校	31
(2)	旧大野小学校	34
(3)	旧大熊中学校	37
(4)	学び舎 ゆめの森	40
※	大熊町の旧教育施設	41
9	これからの大熊町	42
(1)	避難指示区域の状況	43
(2)	復興への取組	43
(3)	大熊町の未来へ	44
■	資料	
○	大熊の民話地図	46
○	民話「論山まつり」	48



# 1 わたしたちの町 大熊町

## (1) 町章とその由来



中央に<sup>ひやくてきはってん</sup>飛躍的發展を「大」の文字で表現し、上部に「く」、下部に「マ」の文字を<sup>まあんか</sup>図案化し、「大熊」としました。円形は<sup>へいわ</sup>平和を表し、<sup>つばさかた</sup>翼型は、<sup>さんぎょうぶんか</sup>産業文化の發展と<sup>はってん</sup>飛躍を表現しました。(昭和44年11月1日制定)

これからの<sup>ふっこう</sup>復興を願う大熊町にぴったりの町章だね。



## (2) 大熊町の花、木、鳥 (福島教育情報データベースより)

◎町の花 <sup>なし</sup>梨 (昭和59年11月1日制定)



◎町の木 <sup>もみ</sup>樅 (昭和48年4月1日制定)



◎町の鳥 <sup>とび</sup>鳶 (昭和59年11月1日制定)



## 大熊町民憲章 (昭和55年4月1日制定)

私たちは、美しいあぶくまの山なみと青い海、清らかな川の流にはぐくまれた大熊町の町民です。

私たちは、先民の<sup>せんみん</sup>遺業を受けついで、心豊かな<sup>いじょう</sup>生きがいのある住みよい町をつくるため、ここに町民憲章を定めます。

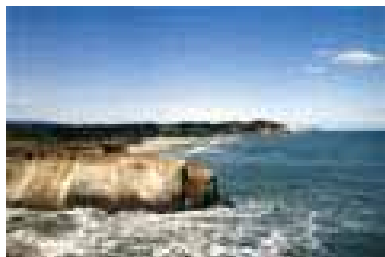
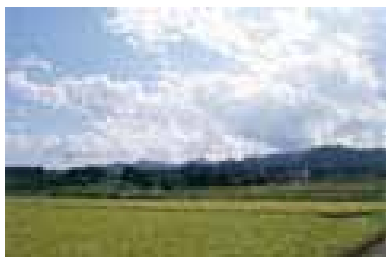
- 1. <sup>けんこう</sup>健康で<sup>はたら</sup>楽しく<sup>ゆた</sup>働ける豊かなまちをつくりましょう。
- 1. みんなで助けあい、<sup>あきら</sup>明るいまちをつくりましょう。
- 1. <sup>ま</sup>きまりを守り、平和な住みよいまちをつくりましょう。
- 1. 自然を<sup>あい</sup>愛し、きれいなまちをつくりましょう。
- 1. <sup>か</sup>進んで<sup>か</sup>学び、<sup>ぶんか</sup>香り高い文化のまちをつくりましょう。



### (3)大熊町の位置

大熊町は、<sup>ふくしまけん</sup>福島県浜通りの地方の中心に位置し、東は<sup>たいへいよう</sup>太平洋、西はあぶくま高地に<sup>かこ</sup>囲まれた町です。

気候は、夏はすずしく、冬は<sup>ひ</sup>比較的<sup>てきおんだん</sup>温暖で、年間<sup>ねんかんこうすいりょう</sup>降水量も1200ミリ<sup>ぜんご</sup>前後でほとんど雪は<sup>ふ</sup>降りません。



#### 【あぶくま高地】

<sup>でんえんふうけい</sup>田園風景とあぶくま高地

#### 【太平洋】

<sup>せ</sup>馬の背と太平洋

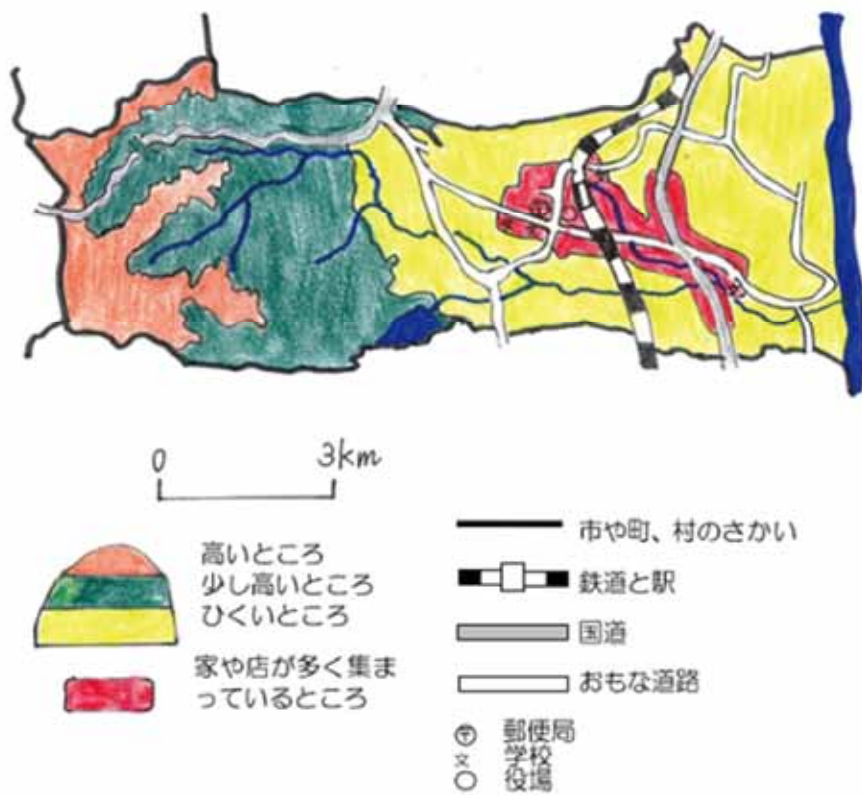
わたしたちの大熊町は  
どのような町かな？



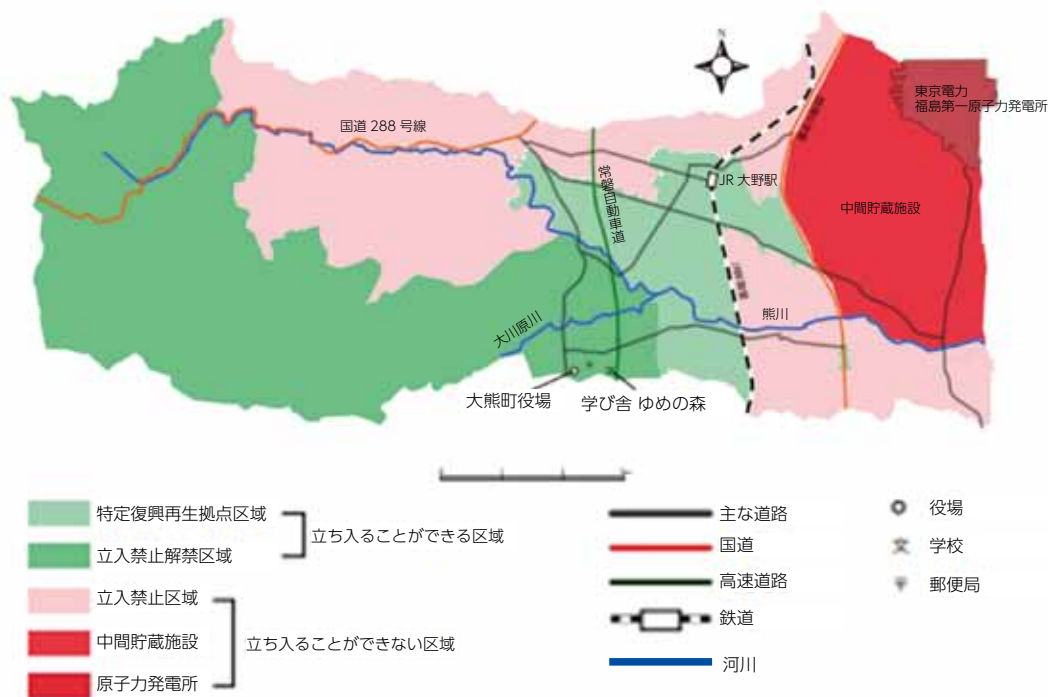


### (4)大熊町の土地のようす

#### ①大熊町の土地利用 (震災前)



#### (現在)



## ②学校のまわりのようす



学び舎ゆめの森周辺図

学校のまわりのようすが分かるように、地図記号を入れてみよう！

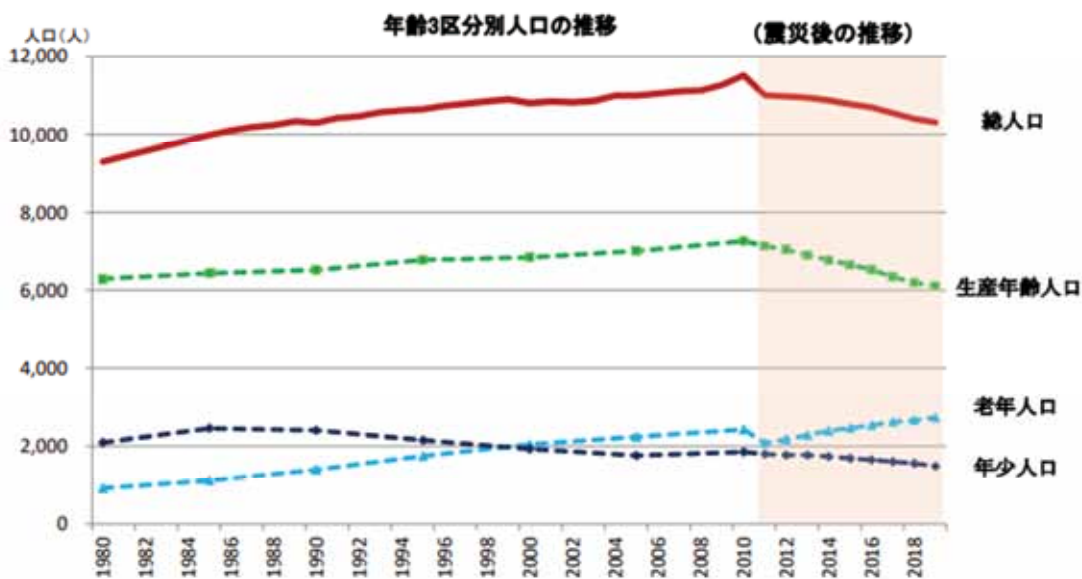


学校のまわりには、どんな建物があるかな？  
た<sup>な</sup>けんしてみよう！

(5)大熊町の人口の変化

令和4年10月31日現在の人口

	人口数
平成23年3月11日時点	11,505
令和4年10月31日現在	10,032
増減	減 1,473



● グラフを見て、気付いたことを書きましょう。

● 現在の<sup>げんざい</sup>大熊町の人口を<sup>しら</sup>べてみましょう。

## 2 原子力発電所事故のようす

(1) 大熊町の原子力発電所～東京電力福島第一原子力発電所～



← 事故前の原子力発電所



⇒ 事故後の原子力発電所

2号機原子炉建屋（山側）  
（平成23年4月10日撮影）

《東京電力 HP より》

大熊町には、となりの双葉町とにまたがって昭和46年から運転開始された原子力発電所があります。平成23年3月11日の東日本大震災によって、事故が起きました。それまでは、そこでつくられた電気は40年間にわたり関東地方へ送られ、各家庭や会社、工場などで利用されていました。

関東地方の生活を  
支える電気を作っ  
ていたんだね。



大熊町では、多くの方がこの原子力発電所で仕事をしたり、原子力発電所に関係する会社で仕事をしたりしていました。

### (2) 事故の影響

#### ① 事故によりすべての町民が避難

福島第一原子力発電所の事故によって、私たちは避難をしなければならなくなりました。（平成23年3月12日）

大熊町役場と幼稚園、小・中学校は、約100km西に離れた会津若松市へ移しました。12年たった今でも、震災当時の町民の多くが県内外で生活を送っています。（令和5年3月）



【大熊町避難直後の状況】(平成23年3月11日～)

3/11	14:46 東日本大震災発生 夜 原発から3km圏内避難指示	3/25	会津若松市に町役場と幼稚園、 小・中学校を受け入れてもらう ことを決定
3/12	全町避難(田村市へ一次避難) 朝 原発から10km 圏内避難指示	3/26～	役場・学校立ち上げの準備
	福島第一原発1号機水素爆発 夜 原発から20km 圏内避難指示	4/3～ 4/4	会津若松市へ町民二次避難
3/14	福島第一原発3号機水素爆発	4/16	幼稚園、小・中学校 合同入園・入学式
3/21	小学校6年生の卒業を祝う会 (田村市)	4/19	新学期(一学期)スタート

【県内外の居住・避難者数】(令和4年10月1日現在) (人)

北海道	35	埼玉県	349	岐阜県	4	鳥取県	0	佐賀県	4
青森県	16	千葉県	251	静岡県	11	島根県	0	長崎県	0
岩手県	3	東京都	233	愛知県	5	岡山県	2	熊本県	2
宮城県	188	神奈川県	146	三重県	5	広島県	0	大分県	6
秋田県	15	新潟県	149	滋賀県	0	山口県	2	宮崎県	26
山形県	34	富山県	4	京都府	8	徳島県	0	鹿児島県	1
福島県	7755	石川県	12	大阪府	16	香川県	0	沖縄県	8
茨城県	442	福井県	5	兵庫県	6	愛媛県	1	海外	1
栃木県	184	山梨県	8	奈良県	0	高知県	0	不明	1
群馬県	68	長野県	7	和歌山県	3	福岡県	20	計	10036

【福島県内の居住・避難者数】(令和4年10月1日現在) (人)

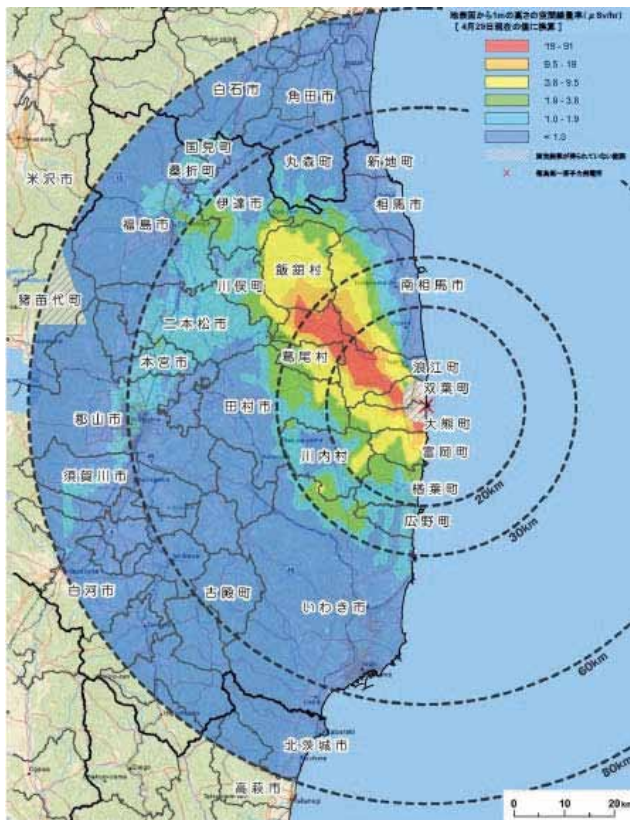
福島市	192	本宮市	45	西会津町	0	中島村	0	小野町	10
会津若松市	536	桑折町	0	磐梯町	6	矢吹町	17	広野町	54
郡山市	1005	国見町	2	猪苗代町	6	棚倉町	1	檜葉町	43
いわき市	4501	川俣町	0	会津坂下町	13	矢祭町	0	富岡町	27
白河市	54	大玉村	10	湯川村	3	塙町	1	川内村	11
須賀川市	99	鏡石町	10	柳津町	0	鮫川村	6	大熊町	395
喜多方市	38	天栄村	0	三島町	0	石川町	3	双葉町	0
相馬市	100	下郷町	0	金山町	0	玉川村	3	浪江町	7
二本松市	31	檜枝岐村	0	昭和村	0	平田村	4	葛尾村	3
田村市	52	只見町	0	会津美里町	19	浅川町	0	新地町	32
南相馬市	271	南会津町	0	西郷村	18	古殿町	6	飯舘村	0
伊達市	9	北塩原村	0	泉崎村	18	三春町	64	計	7755

### ② 空気の汚染

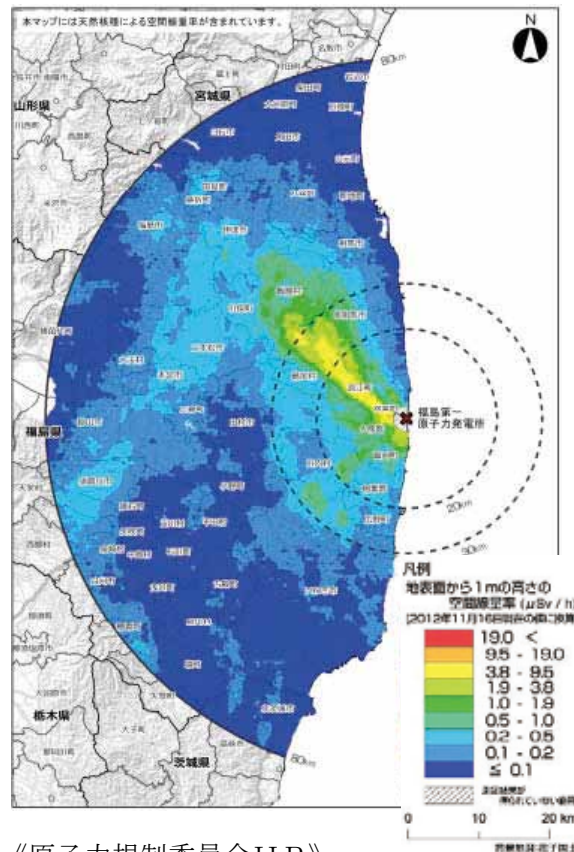
福島第一原子力発電所の事故により、放射性物質が大気中に放出されました。その際に、放射性ヨウ素や放射性セシウムが放出されました。

福島県をはじめ関東地域の放射線量は、事故直後から数日の間にピークを示しました。年月の経過に伴い、放射線量は下がってきています。

【平成23年5月6日】



【令和3年10月25日】



《原子力規制委員会HP》

### ③ 海の汚染

事故により、放射性物質に汚染された水が、海に流れ出ました。それにより、漁業等は制限され、出荷ができませんでした。

現在(令和4年)は、漁港や漁船など漁業生産基盤の復旧が進み、漁協の自主検査等により安全に県産水産物を出荷できるようになりました。



《福島県漁業協同組合連合会HP》

### 3 避難先にある大熊町のしせつ

大熊町役場会津若松出張所しゅつちようじよ（会津若松市）

まちしゃかいふくしきようぎかい  
（町社会福祉協議会も入っています）



大熊町役場中通り連絡事務所（郡山市）

まちしゃかいふくしきようぎかい  
（町社会福祉協議会も入っています）



大熊町役場いわき出張所しゅつちようじよ（いわき市）

まちしょうこうかい まちしゃかいふくしきようぎかい  
（町商工会や町社会福祉協議会も入っています）



1 わたしたちの町  
大熊町

2 原子力発電所  
事故のよつす

3 避難先にある  
大熊町のしせつ

4 原発事故前の豊かな  
自然を活用した大熊  
町の農業、水産業

5 大熊町の歴史

6 大熊町の文化財や  
伝統行事

7 きょう土を開く

8 大熊町小・中学校  
の歴史

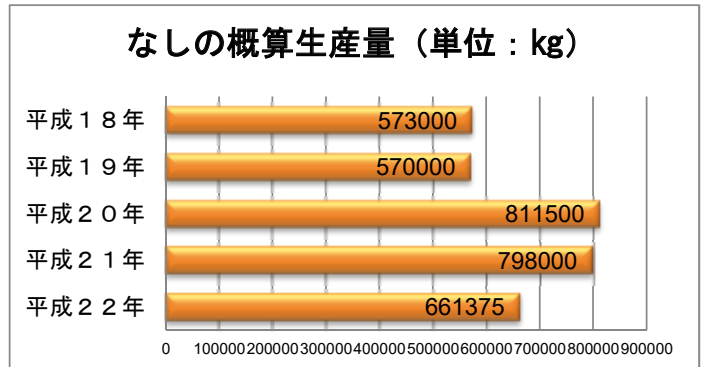
9 これからの大熊町

資  
料

## 4 原発事故前の豊かな自然を活用した大熊町の農業、水産業

### (1) 農業

大熊町では、なし作りがさかんにおこなわれていました。どのように、なし作りが行われていたのか調べてみましょう。



なしづくりの一年

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
仕事	・せん定			・てき花	・じゅふん	・てき花		・防虫ネット	・しゅうかく			・土のかんり

☆どんなことをするのか？調べてみよう。

せん定
てき花
じゅふん

☆なしを作るために、農家の人たちはどんな工夫くふうをしているのかな？



【なしが<sup>しゅつか</sup>出荷されるまで】



【収穫】



【選果場に集められる】



【大きさごとに選別】



【出荷】



【箱詰め】

～なし農家の方のお話～  
 大熊町のなしづくりは140年もの歴史があります。町を離れてみて、あらためて大熊町のなしのおいしさに気づきました。みなさんには大熊町では、なしづくりが盛んにおこなわれていたということを忘れないでいてほしいです。  
 (平成25年11月談)

☆なしにはどのような種類<sup>しゅるい</sup>があるのかな？

☆大熊のなしを今でも作り続けている方の話を聞いてみよう。

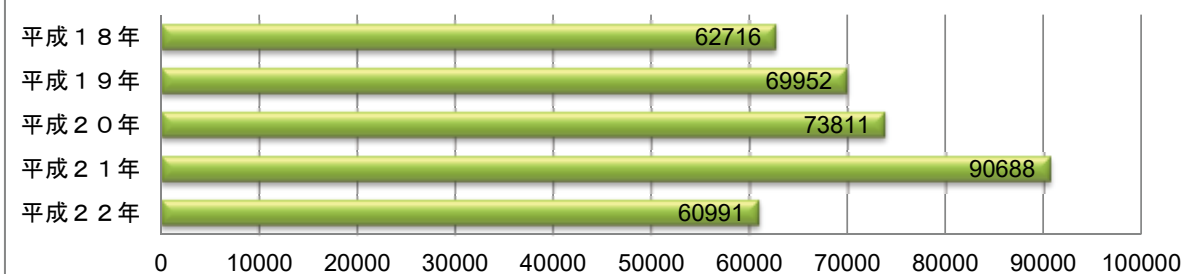
## (2) 水産業

熊川にはサケのやなばがあり、毎年10月中旬から12月上旬まで、サケ漁をおこなっていました。サケの産卵・人工ふ化などをおこない、ち魚を川に放したりしました。

熊川のサケ漁（秋に熊川に帰ってくる鮭）の群れはみごとで、あみ引きにはよろこびの声があがりました。



熊川のサケの漁獲量（単位：kg）



熊川漁業協同組合より

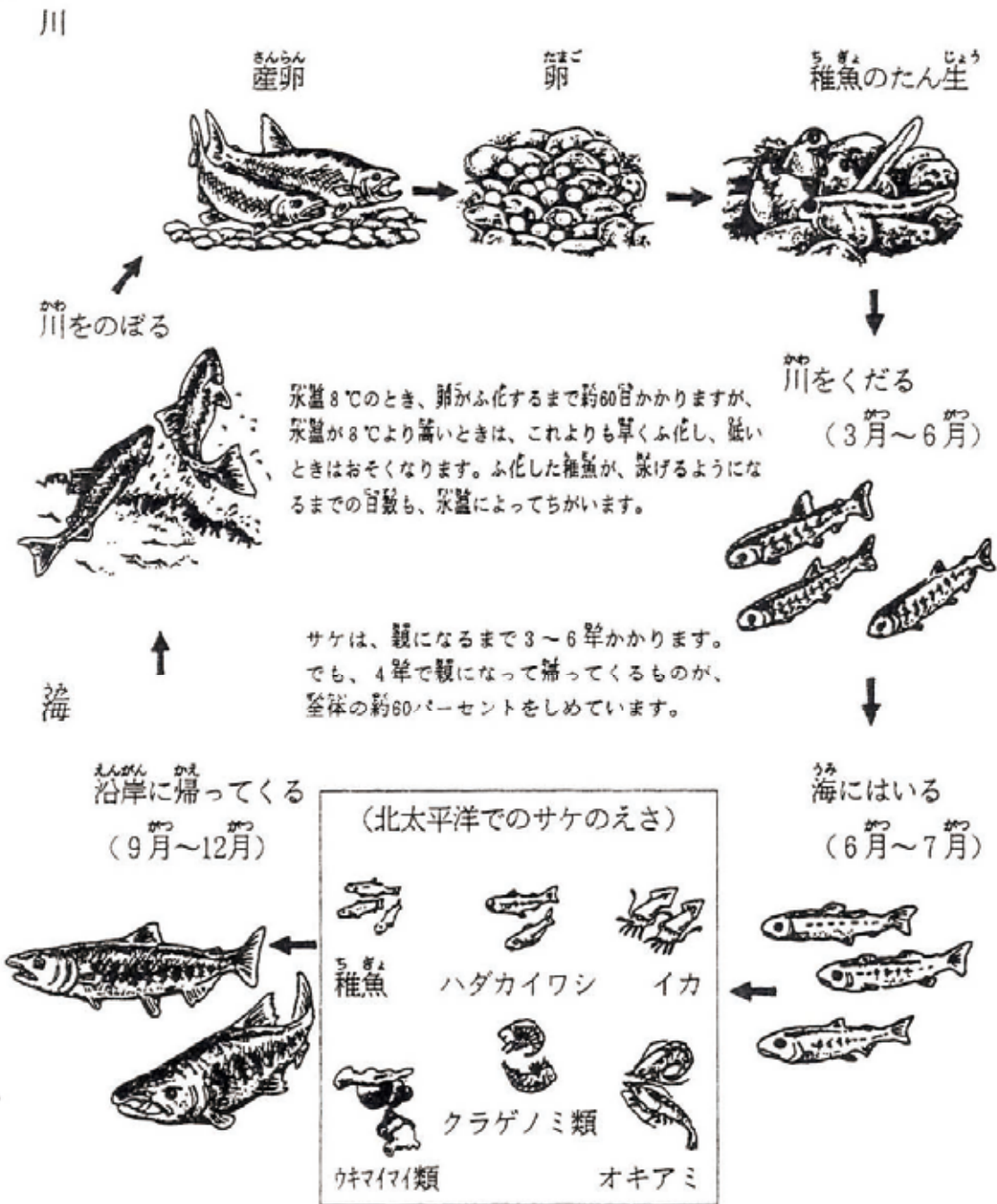


### 熊川漁業協同組合の方のお話

これまでに600万匹の稚魚を放流しました。わずか1gだった稚魚が4年後、4～5kgになって熊川に戻ってきます。震災後、熊川の様子を見にいきましたが、今までにないくらい多くのサケが戻ってきていました。漁ができず、さみしく思います。ぜひ若い人たちにサケ漁を復活させてほしいです。（平成25年11月談）

# サケの一生

サケは北の海の魚で、冷たくて、きれいな水が好きです。その一生は、川で生まれ、海で大きくなって、卵を産むために、ふたたび生まれた川へ帰ってくるという、ほかの魚にはみられない習性があります。




サケっ子プロジェクト2007  
「やさしくサケの卵を育てよう」  
～横浜・川崎サケっ子の会～より

## 5 大熊町の歴史

- 大熊町には、12,000年も前から人が住んでいたんだね。
- 「かしこい人は歴史から学びます。」（ドイツのビスマルクのことは）

西暦など	年代など	大熊の主なできごと	日本の主なできごとなど
1万2千年以上前	旧石器時代	<p>・打ち欠いただけの石器を用いて山野に生息していた大型獣（ナウマンゾウやオオツノジカ）の狩猟をしていた。</p> 	<p>大熊町の南金谷遺跡（野上字清水）から出土した尖頭器です。 大熊町教育委員会所蔵</p>
1万2千年前ごろ～2300年前ごろ	縄文時代	<p>・このころ、…クリ、クルミ、トチ、ドングリなどの木の実やヤマイモなどを採取したり、ニホンジカやイノシシを狩猟したり海や川で魚や貝を獲って暮らしていた。狩猟の道具として弓矢、食べ物を煮るために土器を使用した。</p> 	<p>大熊町の砂出遺跡（野上字湯ノ神）から出土した縄文土器です。 大熊町教育委員会所蔵</p>
2400年前ごろ～1700年前ごろ	弥生時代	<p>・このころ、稲作が始まり、石包丁を用いて稲穂を収穫した。 ・弥生土器が落合遺跡（熊字旭台）、道平遺跡（大川原字西平）、北原日向遺跡（小入野字東平）などから出土している。</p> 	<p>大熊町の北台遺跡から出土した石包丁です。大熊町教育委員会所蔵</p>

<p>300年ごろ ～700年ごろ</p>	<p>古墳時代</p>	<p>・この頃大和王権が九州から東北南部までを統一した。          ・天皇や力を持った豪族の大きな墓(古墳)が多くつくられた。</p>	<p>大熊町の主な古墳          熊川古墳(熊川字古館)          熊ノ沢古墳(夫沢字長者原)          地極沢古墳(小良浜字高平)</p> <p>会津若松市の主な古墳          会津大塚山古墳(一箕町)          …卑弥呼の鏡といわれる          三角縁神獣鏡が出土</p>
<p>593年 645年 701年</p>	<p>飛鳥時代</p>	 <p>この頃の東北地方には、陸奥国と出羽国の2つがありました。当時の大熊は、陸奥国です。</p>	<p>・聖徳太子が政治を行う。          ・大化の改新が始まる。          ・大宝律令が制定される。</p>
<p>710年 712年 720年 724年 752年</p>	<p>奈良時代</p>	<p>大熊町の板付観音の伝説          その昔、坂上田村麻呂の馬が谷底に落ちて死んでから以後、馬をひいてそこを通ると谷底から悲しげな泣き声がし、馬が谷底に転げ落ちて死んでしまうことが続いたので供養のために観音様を祀った。</p>	<p>・平城京(奈良)に都をうつす。          ・「古事記」ができる。          ・「日本書紀」ができる。          ・陸奥国に多賀城(今の宮城県多賀城市)を築く。          ・東大寺大仏殿が完成する。</p>
<p>794年 802年 894年 935年</p>	<p>平安時代</p>	<p>福島県(浜通り)にまつわる万葉集の歌          「陸奥の真野の草原 遠けども 面影にして 見ゆといふものを」(南相馬市真野)          「松が浦に 駿急群立ち 真人言 思ほすなもろ わが思ほのすも」(相馬市松川浦)          「沼二つ 通は鳥が巢 吾が心 二つ行くなもと なよ思はりそね」(広野町二つ沼)          「ひた瀉の 磯の和布の 立ち乱え 吾をか待つなも 昨夜も今夜も」(いわき市久ノ浜)</p>	<p>・平安京(京都)に都をうつす。          ・征夷大將軍の坂上田村麻呂が胆沢城(今の岩手県奥州市)を築く。          ・この頃、「万葉集」ができる。          ・遣唐使を廃止する。          ・平将門の乱が起こる。</p>
<p>1086年 1167年</p>			<p>・白河上皇の院政が始まる。          ・平清盛が、太政大臣となる。</p>

1185年 1189年	鎌倉時代		<ul style="list-style-type: none"> <li>・源頼朝が守護・地頭をおく。</li> <li>・源頼朝が奥州の藤原氏を討つ。(奥州合戦)</li> </ul>
<p>福島県浜通りと奥州合戦</p> <p>東海道進軍の大將軍として下総国(今の千葉県)の武士 千葉常胤(奥州相馬氏の祖相馬師常の父)が浜通りを北上して多賀城へ向かった。この常胤は、奥州合戦で手柄を立て、そのほうびに、浜通り地方などの所領を源頼朝からもらった。常胤の二男 相馬師常の6代あとの相馬重胤が、1323年、奥州行方郡(今の南相馬市と飯館村)へ移り住んだ。以後、相馬氏は、江戸時代末まで今の相馬双葉地方を支配する。</p>			
1232年 1274年 1281年 1333年		<ul style="list-style-type: none"> <li>・鎌倉時代の初めごろから、標葉郡(今の浪江・双葉・大熊・葛尾)を標葉氏が支配する。</li> <li>・このころ、相馬氏が行方郡(今の南相馬市)に移り住む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・御成敗式目が制定される。</li> <li>・文永の役が起こる。(元寇)</li> <li>・弘安の役が起こる。(元寇)</li> <li>・鎌倉幕府が滅びる。</li> </ul>
1338年 1467年 1492年	室町時代 (戦国時代)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・このころから、標葉氏と相馬氏との争いが始まる。</li> <li>・標葉氏が相馬氏に滅ぼされる。</li> <li>・このころから相馬氏が宇多郡(今の相馬・新地)、行方郡、標葉郡、檜葉郡(今の富岡・檜葉・広野・川内)を支配する。</li> <li>・相馬氏と伊達氏の争いが激しくなる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・足利尊氏が征夷大將軍となる。</li> <li>・応仁の乱が起こる。</li> <li>・桶狭間の戦いが起こる。</li> </ul>
1573年 1575年 1582年 1589年 1590年	安土桃山時代	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相馬氏は伊達政宗に攻められ、駒ヶ峯城・新地城が落城する。</li> <li>・相馬氏は、豊臣秀吉の小田原攻めに参加した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・足利義昭が織田信長により、京都を追放される。</li> <li>・長篠の戦いが起こる。</li> <li>・本能寺の変が起こる</li> <li>・豊臣秀吉が小田原の北条氏を滅ぼす。</li> </ul>

1600年		<ul style="list-style-type: none"> <li>相馬氏は、関ヶ原の戦いで、西軍(豊臣方)、東軍(徳川方)どちら側にも兵を出さず、その結果、徳川家康に領地を取り上げられそうになった。</li> </ul>	<p>奥州(今の東北地方)の伊達政宗が豊臣秀吉の家臣となる。(豊臣秀吉の全国統一)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>関ヶ原の戦いが起こる。</li> </ul>
1602年		<ul style="list-style-type: none"> <li>徳川家康にゆるされて、宇多、行方、標葉の領地の取り上げをまぬがれた。</li> </ul>	
1603年	江戸時代		<ul style="list-style-type: none"> <li>徳川家康が征夷大将軍となり、江戸幕府を開く。</li> </ul>
1614年			<ul style="list-style-type: none"> <li>大阪冬の陣。</li> </ul>
1615年			<ul style="list-style-type: none"> <li>大坂夏の陣。豊臣家滅ぶ。</li> </ul>
1616年			<ul style="list-style-type: none"> <li>鎖国始まる。</li> </ul>
1732年			<ul style="list-style-type: none"> <li>享保のききん</li> </ul>
1782年			<ul style="list-style-type: none"> <li>天明のききん</li> </ul>
1783年		<ul style="list-style-type: none"> <li>10月から翌年3月までの相馬藩での餓死者は、4,416名、6月になると約8,500名に増加している。</li> </ul>	
1787年		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>たび重なるききんにより、相馬藩は、財政</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>寛政の改革(老中:松平定信)</li> </ul>
1833年		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>難となり、藩の力はおとろえていった。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>天保のききん</li> </ul>
1839年		<ul style="list-style-type: none"> <li>藩の復興は、二宮尊徳の御仕法によるしかないと考えた富田高慶は、苦勞して尊徳の門人となった。</li> </ul>	
1841年			<ul style="list-style-type: none"> <li>天保の改革(老中:水野忠邦)</li> </ul>
1845年		<ul style="list-style-type: none"> <li>相馬藩の御仕法が始まる。</li> </ul>	
1853年			<ul style="list-style-type: none"> <li>ペリーが浦賀に來航する。</li> </ul>
1860年			<ul style="list-style-type: none"> <li>桜田門外の変</li> </ul>
1867年			<ul style="list-style-type: none"> <li>大政奉還</li> </ul>
1868年	明治 元年	<ul style="list-style-type: none"> <li>相馬藩は、薩摩藩・長州藩を中心とする新政府軍と戦う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>戊辰戦争が始まる。</li> </ul>
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>戊辰戦争…仙台藩を中心とした東北諸藩は新政府軍に対し、4月20日奥羽越列藩同盟を結んで反抗した。</p> <p>6月15日…新政府軍が平瀧港に上陸 8月4日…相馬藩降伏</p> </div>	

		<p>7月13日…<sup>たいらじょうらくじょう</sup>平城落城。</p> <p>7月27日…<sup>ながおかじょう</sup>長岡城落城。</p>	<p>9月7日…仙台藩降伏</p> <p>9月22日…<sup>あいつわかまつじょう</sup>会津若松城落城</p>
1872年	明治5年		<ul style="list-style-type: none"> <li>・<sup>がくせいこうふ</sup>学制公布</li> </ul>
1873年	明治6年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<sup>くまがわしょうがっこう</sup>熊川小学校、<sup>おおがわら</sup>大川原小学校ができる。</li> </ul>	
1874年	明治7年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<sup>おとざわ</sup>夫沢に熊川小学校の<sup>ぶんこう</sup>分校ができる。</li> </ul>	
1877年	明治10年		<ul style="list-style-type: none"> <li>・<sup>せいなんせんそう</sup>西南戦争が起こる。</li> <li>・<sup>とうきょうだいがくかいせつ</sup>東京大学開設</li> </ul>
1878年	明治11年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・熊川の<sup>さけ</sup>鮭の<sup>ぎょかくりょう</sup>漁獲量716本</li> </ul>	
1880年	明治13年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<sup>さやまむら</sup>佐山村が<sup>くまむら</sup>熊村に合併する。</li> </ul>	
1885年	明治18年		<ul style="list-style-type: none"> <li>・<sup>ないかくせいどほつそく</sup>内閣制度発足。<sup>いとうひろぶみ</sup>伊藤博文が<sup>しよだい</sup>初代<sup>ないかくそうりだいじん</sup>内閣総理大臣に<sup>しゆうにん</sup>就任</li> </ul>
1889年	明治22年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<sup>こいりのむら</sup>熊川村、<sup>くまむら</sup>熊村、<sup>おとざわ</sup>夫沢村、<sup>こいりのむら</sup>小入野村、<sup>おらはまむら</sup>小良浜村の5つの村が合併して<sup>くままちむら</sup>熊町村となる。</li> <li>・<sup>のがみむら</sup>野上村、<sup>おおがわらむら</sup>大川原村、<sup>しもののがみむら</sup>下野上村の3つの村が合併して<sup>おおのむら</sup>大野村となる。</li> <li>・<sup>おおのじんじょうしょうがっこう</sup>大野尋常小学校、<sup>くままちじんじょう</sup>熊町尋常小学校新築。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<sup>だいにほんていこくけんぽうほつぷ</sup>大日本帝国憲法発布</li> <li>・<sup>とうかいどうせんぜんせんかいつう</sup>東海道線全線開通</li> </ul>
1893年	明治26年		
1894年	明治27年		<ul style="list-style-type: none"> <li>・<sup>にっしんせんそう</sup>日清戦争が始まる。</li> </ul>
1896年	明治29年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<sup>くままちうけとりじよ</sup>熊町受取所を<sup>くままちゆうびんきょく</sup>熊町郵便局と<sup>なまえ</sup>名前を改める。</li> </ul>	
1904年	明治37年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<sup>おおのえき</sup>大野駅ができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<sup>にちるせんそう</sup>日露戦争が始まる。</li> </ul>
1912年	明治45年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<sup>おおのゆうびんきょくしんせつ</sup>大野郵便局新設。</li> </ul>	
1917年	大正6年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・10月1日、<sup>だいぼうふうう</sup>大暴風雨により、<sup>くままちむら</sup>熊町村で全壊戸数が41戸、<sup>ししやすう</sup>死者数は<sup>おおのむら</sup>大野村で4名にぼる。</li> </ul>	
1923年	大正12年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<sup>ぎえんまい</sup>義援米として<sup>くままちむら</sup>熊町村から4万石、<sup>おおのむら</sup>大野村から3万石を<sup>かんとうだいしんさい</sup>関東大震災の<sup>ひさいち</sup>被災地東京へ送る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<sup>かんとうだいしんさい</sup>関東大震災</li> </ul>
1935年	昭和10年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<sup>おおがわら</sup>大川原、<sup>のがみ</sup>野上、<sup>しもののがみ</sup>下野上、<sup>くままち</sup>熊町、<sup>おとざわ</sup>夫沢に<sup>ごうそう</sup>郷倉を設置。</li> </ul>	
1939年	昭和14年		<ul style="list-style-type: none"> <li>・<sup>だいにじせかいたいせん</sup>第二次世界大戦が始まる。</li> </ul>
1941年	昭和16年		<ul style="list-style-type: none"> <li>・<sup>たいへいようせんそう</sup>太平洋戦争が始まる。</li> </ul>
1946年	昭和21年		<ul style="list-style-type: none"> <li>・<sup>にほんこくけんぽうこうふ</sup>日本国憲法公布</li> </ul>



1954年	昭和29年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大野村と熊町村が合併し、大熊町となる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東海道新幹線開通。東京オリンピック開催。</li> <li>・日本万国博覧会開催</li> <li>・札幌冬季オリンピック開催</li> </ul>
1959年	昭和34年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大熊町果樹選果場ができる。</li> </ul>	
1964年	昭和39年		
1970年	昭和45年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・熊町幼稚園が発足。</li> </ul>	
1971年	昭和46年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東京電力福島第一原子力発電所一号機の運転を開始。</li> </ul>	
1972年	昭和47年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大野小学校敷地内に大野幼稚園ができる。</li> </ul>	
1973年	昭和48年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・熊町中学校、大野中学校が統合され大熊中学校となる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長野冬季オリンピック開催</li> <li>・東日本大震災発生。東京電力福島第一原子力発電所事故発生</li> </ul> 
1982年	昭和57年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大野小学校新校舎が完成。</li> </ul>	
1991年	平成3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バサースト市と姉妹都市。</li> <li>・熊川鮭ふ化場完成。</li> <li>・大熊町文化センター完成。</li> </ul>	
1996年	平成8年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヒラメ養殖施設ができる。</li> <li>・大熊町図書館・民俗伝承館ができる。</li> </ul>	
1998年	平成10年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長野冬季オリンピック開催</li> </ul>	
2003年	平成15年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大野、熊町両児童館ができる。</li> </ul>	
2010年	平成22年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大野小学校図書館ができる。</li> </ul>	
2011年	平成23年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3月11日、東日本大震災発生。</li> <li>東京電力福島第一原子力発電所事故発生。</li> <li>・3月12日、全町民避難。</li> <li>・4月16日、幼、小、中学校が会津若松市で合同入学式。</li> <li>・4月19日から授業を再開。</li> </ul>	
2013年	平成25年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校創立140周年、大熊中学校創立40周年記念式典を挙行。</li> </ul>	
2022年	令和4年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4月1日、義務教育学校「学び舎 ゆめの森」開校。</li> </ul>	
2023年	令和5年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4月1日、大川原地区で学校を再開。(予定)</li> </ul>	

## 6 大熊町の文化財や伝統行事

### (1) 古い家

下の写真は、震災前に大熊町にあった「民俗伝承館」の中に再現されていた熊川の農家のような家です。家が建てられたのは明治のころですが、中のような家は昭和20年ごろ（今から80年前ごろ）を再現しています。



いろいろな道具から、みんなのおじいさんやおばあさんが子どもだったころの暮らしについて調べてみよう。

1 わたしたちの町  
大熊町

2 原子力発電所  
事故のようす

3 避難先にある  
大熊町のしせつ

4 原爆事故前の豊かな  
自然を活用した大熊  
町の農業、水産業

5 大熊町の歴史

6 大熊町の文化財や  
伝統行事

7 きょうとを歩く

8 大熊町小・中学校  
の歴史

9 これからの大熊町

資料

## (2) 古い道具



羽釜(はがま)

どのように使われていたのかな・・・？



石油ランプ



鉄瓶(てつびん)



火鉢(ひばち)



がんとう

1 わたしたちの町  
大熊町

2 原子力発電所  
事故のよつす

3 避難先にある  
大熊町のしせつ

4 原発事故前の豊かな  
自然を活用した大熊  
町の農業、水産業

5 大熊町の歴史

6 大熊町の文化財や  
伝統行事

7 きょう土を開く

8 大熊町小・中学校  
の歴史

9 これからの大熊町

資料

1 わたしたちの町  
大熊町

2 原子力発電所  
事故のようす

3 避難先にある  
大熊町のしせつ

4 原発事故前の豊かな  
自然を活用した大熊  
町の農業、水産業

5 大熊町の歴史

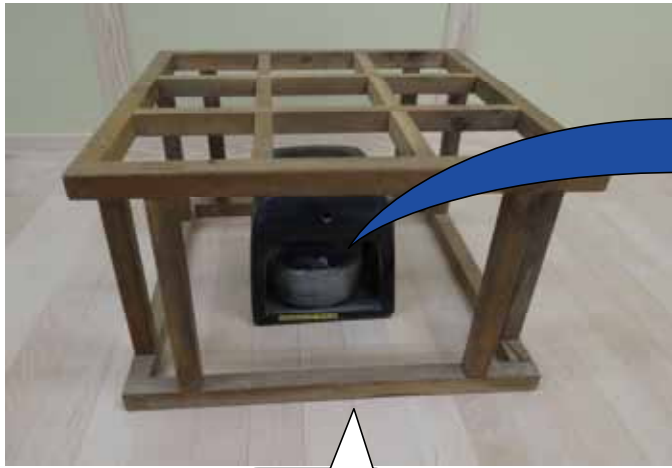
6 大熊町の文化財や  
伝統行事

7 きょう土を開く

8 大熊町小・中学校  
の歴史

9 これからの大熊町

資料



こたつ



行火(あんか)



炭火アイロン



せんたく板

たらい



襦袢(じゅばん)

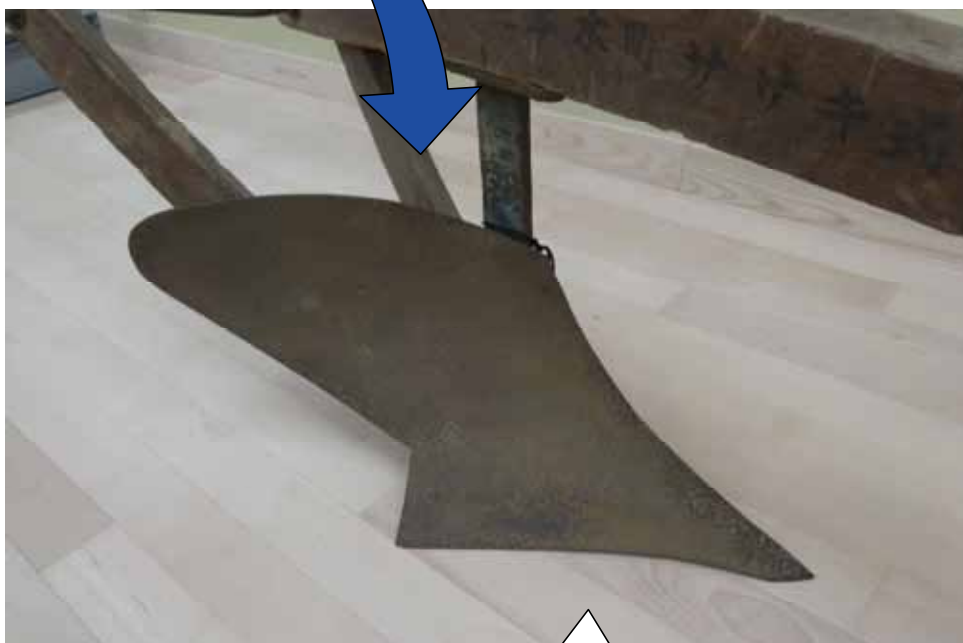


もんぺ

【農具 (のうぐ)】



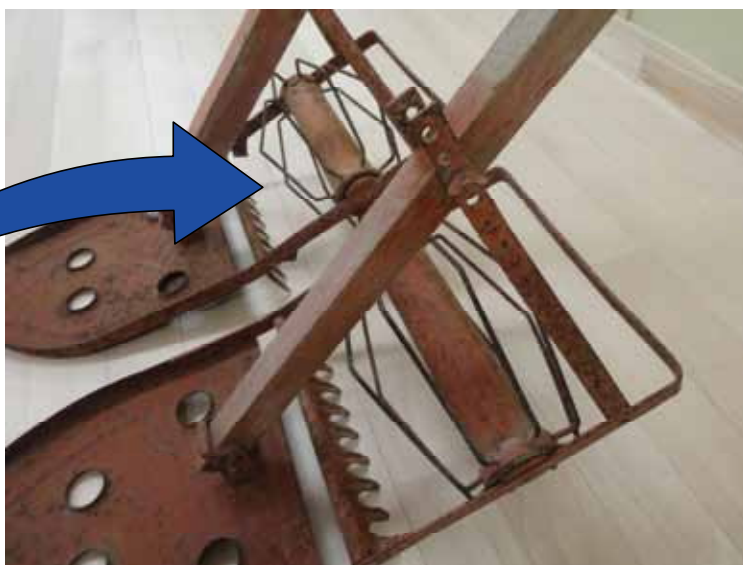
これらの道具は、何に使われていたのかな？



馬耕 (ばこう)



田車 (たぐるま)



1 わたしたちの町  
大熊町

2 原子力発電所  
事故のよつす

3 避難先にある  
大熊町のしせつ

4 原発事故前の豊かな  
自然を活用した大熊  
町の農業、水産業

5 大熊町の歴史

6 大熊町の文化財や  
伝統行事

7 きょう土を開く

8 大熊町小・中学校  
の歴史

9 これからの大熊町

### (3) 地域の文化財や伝統行事

文化財は、私たちの町の長い歴史の中で生まれ、はぐくまれ、今日まで守り伝えられてきた大切な町の財産です。

文化財というと、社寺などの建造物、仏像、絵画や書画などの形のあるものがま  
ず思い浮かびますが、そのほかにも芸能や工芸技術のような「技（わざ）」、伝統行  
事や祭り、自然の景観なども文化財に含まれます。

全町避難の間にたくさんの文化財が損なわれましたが、地域の文化財や伝統行事  
をこれからも守っていくことがとても大切です。

#### ① 地域の文化財

##### 【初発神社】



熊字熊町にある初発神社は、集落の守り神として信仰を集めていました。原発事故  
後10年の間に傷んでしまい、写真の社殿は取り壊されて再建されることになりました。

# 【はなどり地蔵 (延命地蔵)】

（像高63cm・S48.4.1 町指定有形民俗文化財）

初発神社の境内に並んで地蔵堂があります。ここにまつられているお地蔵さんの正しい名前は延命地蔵で、長寿をかなえてくれる仏さまとして古くから信仰されています。農作業に使った馬を上手にあやつって老夫婦を助けてくれた民話が伝わっており「はなどり地蔵」と呼ばれています。



## ② 地域の伝統行事

【熊川稚児鹿舞】 (町指定無形民俗文化財 S47. 4. 1指定)



熊川字宮ノ上の諏訪  
神社に伝わる獅子舞です。  
諏訪神社は熊川の鎮守  
とされ、祭日は8月27日  
で、氏子の中の長男に限つ  
て奉納されていました。か  
つて、熊川が凶作疫病に  
おそわれたとき神社に獅  
子舞を奉納し、村の再建  
をはかったという言い伝  
えがあります。現在も熊川  
稚児鹿舞保存会が伝承し  
ています。

【じゃんがら念仏太鼓踊り】 (町指定無形文化財 S48. 4. 1指定)



長者原の塞神社で毎  
年8月14日に行われる盆  
踊り大会後、じゃんがら踊  
りが披露されていました。  
「ジャンガラ」とは打ち  
鳴らす鉦の音からついた  
名称と考えられます。  
幕末に相馬常福寺の  
住職によってこの地に  
伝えられたという伝承  
があります。現在、保存会  
の活動は中止しています。



そうまのまおい  
【相馬野馬追】

くにしていじゅうようむけいみんぞくぶんかざい S48.4.1指定)



相馬野馬追は、毎年、7月最終週の土、日、月曜日の3日間行われる古い伝統がある行事です。大熊町からも、毎年数騎の騎馬武者が甲冑姿で参加しています。

# 7 きょう土を開く

## (1) 助宗の堤



おらはま  
小良浜にある助宗の堤  
(双子堤で男堤と女堤がある。)

大きな堤だね！  
だれが何のために  
作ったのかな？



かいせつばん  
堤の入り口にある解説板



にいづますけそう みょうじん  
新妻助宗をまつった助宗明神

### 助宗明神

元禄時代に相馬藩は、米蔵・堤・堀などを作って、農業に力を入れていた。助宗の父、助惣は、代官として三春論山事件で活躍し、五十石の加増を受けた。助宗は、藩の命により、相馬藩の南境小良浜に里人と共に上下二つをトンネルで繋いだ立派な堤を造りあげた。その日、お城から来た吟味役が工事の様様を聞いて、工事小屋から戻るなり、「こら、助宗、この堤は水を海に注ぐために造ったのか！」

「堤は海に向かって造られてありますが丘を一廻りして数丁歩の田に水を注ぎます。」

と説明したが、吟味役は「不届き至極である。謹慎して藩命を待て」と言うなり、供を従えて熊駆に向かつて去って行った。

弁明の余地も与えられなかった助宗は、落館の丘に立って無念の涙で見送った。その夜、新妻助宗は責任を取って時雨の降る堤の丘の上で切腹をして果てた。

里人は、堤の丘の上に小さな祠を建て、助宗が切腹した旧正月十五日を祭日と定め、永く助宗の霊を慰めてきた。

水は今も田んぼを潤し、「助宗の堤」、祠は「助宗明神」として親しまれています。

『民話苦麻川』(一九七三年大熊町公民館編)を一部改変

- 1 わたしたちの町 大熊町
- 2 原子力発電所 事故のよつす
- 3 避難先にある 大熊町のしせつ
- 4 原発事故前の豊かな自然を活用した大熊町の農業、水産業
- 5 大熊町の歴史
- 6 大熊町の文化財や伝統行事
- 7 きょう土を開く
- 8 大熊町小・中学校の歴史
- 9 これからの大熊町
- 資料

## (2) 報徳仕法と大熊町

### 【富田高慶】

今から250年くらい前、天候が悪い日何年も続き、田畑の作物がとれなくなり、人々は食べるものがなくて(天明のききん)苦しみました。

南標葉郷(現在の相馬中村藩)は、相馬中村藩の南のはしに位置するので、藩の中ではききんの被害はもっとも少なかったものの、農作物のとれない中で年貢をおさめなければならず、人々は苦しい生活を続けていました。



木造 富田高慶坐像

(写真提供 南相馬市博物館)

一方そのころ、相馬中村藩士の子として生まれた富田高慶は、荒れはてた領内を立て直すため江戸で勉強し、二宮尊徳の一番弟子となりました。

その後、相馬中村藩にもどった高慶は、尊徳の教えに従って、領内の立て直しを行いました。

人々に節約をするなど生活の仕方を教えたり、堤や用水路をつくったりして、各村を復興させていきました。

では、大熊町ではどうだったのでしょうか。

大熊町では、熊村がそのおんけいを受けました。高慶は、熊村に二度おとずれ、貧しい暮らしを立て直すために、農民や村役人の人たちに、報徳仕法の教えを説きました。

明治の時代に入り、御法度の実施は途中で終わりましたが、その復興へのえいきょうは大きいものでした。

(『大熊町史』より)

※ 相馬中村藩・・・現在の相馬市、南相馬市(鹿島区・原町区・小高区)、浪江町、飯館村、双葉町、大熊町、葛尾村(一部)



報徳仕法の教えが、大熊町に大きなえいきょうをあたえたんだね。  
今の私たちにできることを、考えてみよう。



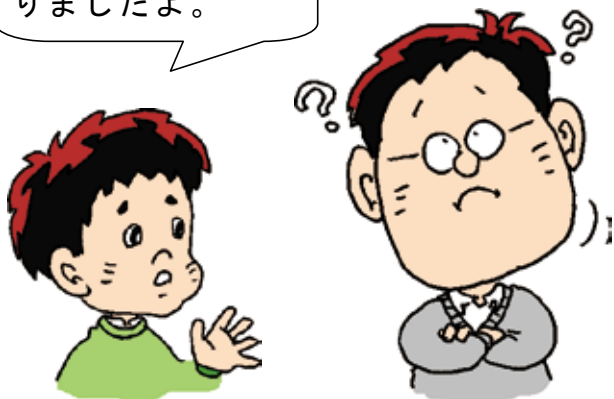
にのみやきんじろうぞう  
二宮金次郎像

(会津若松市旧河東第三小学校)

にのみやきんじ ろう ゆうふく のうか おだわら かながわ  
二宮金次郎は裕福な農家の子として、現在の小田原市（神奈川県）に生まれ  
ました。しかし、不幸にも両親は早くに亡くなり、家はつぶれてしまいました。  
金治郎は家を立て直し、はなればなれになった弟たちと一緒にくらすことをの  
ぞみ、一生懸命働きました。そしてついに家を立て直すことができました。  
家の仕事をしながら勉強にはげんだ二宮金次郎は、その後、二宮 尊徳と呼ば  
れるようになりました。尊徳は、農村を立て直すための方法（報徳仕法）を考  
え、日本各地で実行にうつしました。

避難先の会津若松市  
の学校にあったこの  
像は、いったいだれだ  
ろう？何をした人な  
のかな？

大熊の学校にもあ  
りましたよ。



二宮金次郎像の土台には、  
「至誠」「勤労」「分度」「推譲」という  
四つの教えがぎざまれています。  
どのような意味なのか調べてみましょう。



# 8 大熊町小・中学校の歴史

## (1) 旧熊町小学校

### ①校章



旧熊町小学校の校旗

### ② 校歌

**熊町小学校 校歌**

作詞 小林金次郎  
 作曲 石河清

ろろん ろろんと鳴る海は  
 夢をわかせる 太平洋  
 西につらなる 阿武隈の  
 あの山 あの空 あの光  
 熊町小の わたしらに  
 大きく育てと 呼びかける

まつと さくらの校庭に  
 希望をふりまく 小鳥たち  
 歌う 熊川 清らかに  
 この土 この町 この実り  
 熊町小の わたしらに  
 伸びよと きょうも呼びかける

そうだ 仲よく 肩組んで  
 進もう 正しく たくましく


### ③ 旧熊町小の校舎「花と緑が日本一の学校」



くままちょう 熊町城



#### ④ 歴史

せいれき 西 暦	われき 和 暦	できごと
1873年	明治 6年	○ 3月、大字熊川 <sup>へんじょうじ</sup> 遍照寺に熊川小学校 <sup>せつりつ</sup> を設立。
1874年	明治 7年	○ 熊川六丁目に移転する。大字夫沢 <sup>おつとざわ</sup> 字寺附 <sup>てらつき</sup> 谷地 <sup>やち</sup> に分校をおく。
1877年	明治10年	○ 夫沢分校を夫沢小学校と改称 <sup>かいしやう</sup> する。
1878年	明治11年	○ 大字熊字塚 <sup>つか</sup> 草 <sup>のくさ</sup> に移転する。
1887年	明治20年	○ 夫沢小学校を夫沢簡易 <sup>かんい</sup> 小学校、熊川小学校を熊川尋常 <sup>じんじやう</sup> 小学校と改称。
1893年	明治26年	○ 両校を統合 <sup>とうごう</sup> し、熊町尋常 <sup>じんじやう</sup> 小学校及び夫沢分教場 <sup>せつち</sup> を設置し、位置を現在(震災前の熊川 <sup>みどりがおか</sup> 字緑ヶ丘10)に移す。
		
1941年	昭和16年	○ 熊町村立国民学校と改称する。
1947年	昭和22年	○ 熊町村立熊町小学校と改称する。熊町村立熊町中学校が、小学校の教室や体育館を間借りして発足する。
1954年	昭和29年	○ 大野村と熊町村が合併 <sup>がっぺい</sup> し、大熊町立熊町小学校と改称する。
1969年	昭和44年	○ 校旗、校歌 <sup>せいでい</sup> を制定する。
1970年	昭和45年	○ 熊町幼稚園 <sup>へいせつ</sup> を併設する。
1971年	昭和46年	○ 夫沢分校を本校に統合する。
1977年	昭和52年	○ 緑の少年団を結成する。
1978年	昭和53年	○ 県学校環境緑化コンクール <sup>かんきやうりよつか</sup> 県知事賞 <sup>しやう</sup> 、福島民友新聞社長賞受賞。
1979年	昭和54年	○ 全日本学校環境緑化コンクール <sup>とくせん</sup> 特選、文部大臣賞 <sup>だいじん</sup> ・

昭和9年ころの校舎

		のうりんすいさんだいじん 農林水産大臣賞・日本放送協会 <small>きょうかい</small> 会長賞受賞。
1990年	平成 2年	○ 花いっぱいコンクール特選受賞。
1992年	平成 4年	○ 花いっぱいコンクール県教育長賞受賞。
1996年	平成 8年	○ 緑化推進運動内閣総理大臣賞表彰。
1997年	平成 9年	○ 花いっぱいコンクール県教育長賞受賞。
2000年	平成12年	○ 花いっぱいコンクール特選受賞。 ○ 福島県交通安全県民大会優良学校交通安全隊表彰。
2001年	平成13年	○ 花いっぱいコンクール県教育長賞受賞。
2002年	平成14年	○ 花いっぱいコンクール優秀賞受賞。 ○ 東北管区警察局長東北交通安全協会交通安全優良校表彰。
2005年	平成17年	○ 双葉地方緑化功労団体表彰。
2011年	平成23年	● 東日本大震災・福島第一原子力発電所事故による全町民避難。(23.3.11) ○ 会津若松市河東町(旧 河東第三小学校)にて大野小学校とともに学校を再開。 ○ 幼・小・中合同入学式実施。(23.4.16)
2012年	平成24年	○ 子ども読書活動文部科学大臣表彰(優秀実践校)。 ○ 高円宮妃殿下お成り。
2013年	平成25年	○ 創立140周年記念式典挙行政。
2022年	令和 4年	○ 3月、熊町小学校閉校。 ○ 4月、熊町小学校、大野小学校、大熊中学校の3校を統合し、義務教育学校、大熊町立学び舎 ゆめの森が開校する。

## (2) 旧大野小学校

### ① 校章



旧大野小学校の校旗 こうき

### ② 校歌



### ③ 旧大野小の校舎 「合唱と読書の先進校」




旧大野小の  
図書館





④ 歴史

せいれき 西 暦	われき 和 暦	で き ご と
1873年	明治 6年	○ 7月、大川原村下平の旧講武所跡 <small>あと</small> に大川原小学校を せつりつ 設立。
1876年	明治 9年	○ 学区拡張 <small>がっく かくちよう</small> のため、野上村 <small>のがみ</small> 、下野上村 <small>しものがみ</small> を学区とする 野上小学校を野上村字杉の <small>ぶんせつ</small> 前に分設。
1879年	明治12年	○ 上手岡 <small>うみておか</small> 小学校を分設。
1885年	明治18年	○ 2月、野上小学校火災により全 <small>ぜん</small> 焼 <small>しょう</small> 。 ○ 大川原 <small>かんい</small> 簡易小学校、野上簡易小学校と改称。
1892年	明治25年	○ 大川原小、野上小を合併し大野尋常 <small>おおのじんじよう</small> 小学校と改称 <small>かいしよう</small> 。
1920年	大正 9年	○ 大野尋常高等小学校と改称。
1925年	大正14年	○ 万右衛門 <small>まんえもんざわ</small> 沢分 <small>ざわぶん</small> 教場 <small>きょうじょう</small> を設置。
1934年	昭和 9年	○ 校章を制定。
1941年	昭和16年	○ 大野村国民学校と改称。
1947年	昭和22年	○ 大野村立大野小学校と改称。 ○ 大野村野上に中屋敷分校を開設。
1963年	昭和38年	○ 相双地区のトップを切 <small>こてきたい</small> って鼓笛隊 <small>へんせい</small> を編成。
		 <div data-bbox="1077 1288 1404 1444" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; display: inline-block;">                 昭和33年～ 昭和57年の校舎             </div>
1971年	昭和46年	○ 大野幼稚園 <small>へいせつ</small> を併設。
1974年	昭和49年	○ 県音楽祭第1部(合唱)県大会出場。
1982年	昭和57年	○ TBC子ども音楽コンクール合唱の部東北大会出場。
1983年	昭和58年	○ 福島県建築文化賞特別賞受賞 <small>けんちく</small> 。
1985年	昭和60年	○ 土俵開き <small>どひよう</small> ・相撲大会 <small>すもう かいさい</small> 開催。

1990年	平成 2年	○ 県音楽祭第1部(合唱)金賞受賞。
1991年	平成 3年	○ 県音楽祭第1部(合唱)銀賞受賞。
1993年	平成 5年	○ 花いっぱいコンクール <sup>りよつかすいしん</sup> 県緑化推進委員会理事長賞受賞。
1994年	平成 6年	○ 花いっぱいコンクール県教育長賞受賞。
1996年	平成 8年	○ TBC子ども音楽コンクール合唱の部東北大会出場。
1997年	平成 9年	○ 県教育委員会より、優良PTA <sup>ひょうしょう</sup> 表彰。
2003年	平成15年	○ 「朝の読書」開始。
2004年	平成16年	○ 学校司書配置。
2005年	平成17年	○ 読書活動 <sup>ゆうしゅうじっせん</sup> 優秀実践校文部科学大臣表彰。
2006年	平成18年	○ PTA活動優良校として文部科学大臣表彰。
2007年	平成19年	○ 花いっぱいコンクール民友新聞社長賞受賞。
2009年	平成21年	○ 県音楽祭第1部(合唱)県大会出場。 ○ 学校図書館完成。
2010年	平成22年	○ 県音楽祭第1部(合唱)県大会出場。
2011年	平成23年	● 東日本大震災・福島第一原子力発電所事故による全町民避難。(23.3.11) ○ 会津若松市河東町(旧 河東第三小学校)にて熊町小学校とともに学校を再開。 ○ 幼・小・中合同入学式実施。(23.4.16)
2012年	平成24年	○ 高円宮妃殿下 <sup>たかまどのみやひでんか</sup> お成り。
2013年	平成25年	○ 創立140周年記念式典 <sup>きょこう</sup> 挙行。
2022年	令和 4年	○ 3月、大野小学校閉校。 ○ 4月、熊町小学校と大野小学校、大熊中学校の3校を統合 <sup>とうごう</sup> し、義務教育学校大熊町立学び舎 <sup>ぎむ</sup> ゆめの森が開校する。

### (3) 旧大熊中学校

#### ① 校章




こうき  
旧大熊中学校の校旗

#### ② 校歌

## 大熊中学校校歌

作詞 和田 甫  
作曲 天野秀延



一、 柏のわかば 陽に映えて  
えんじは匂う 旗の色  
学びや清き 丘の上  
真理をもとめ われらゆく  
われら われら われら大熊中

二、 呼べばこたえる 太平洋  
紫金かがやく 阿武隈や  
若き力と 理想こそ  
未来をきずく わが誇り  
われら われら われら大熊中

三、 かげろう燃える 梨の花  
流れて清き 熊川や  
縦ノ木立ちは かげふかく  
わが故里は 幸多し  
われら われら われら大熊中

#### ③ 旧大熊中の校舎 「文武両道、県下に誇る中学校」



「よさこい」…  
震災後も おど 踊って  
います。



④ 歴史

せいれき 西 暦	われき 和 暦	で き ご と
1973年	昭和48年	○ 4月1日、大熊町立大野中学校並びに同町立熊町中学校を統合し、校名が大熊町立大熊中学校となり、大野分室、熊町分室と改称される。
1975年	昭和50年	○ 2月10日、新校歌制定。 ○ 4月1日、大熊中学校として実質統合となる。
1976年	昭和51年	○ 2月1日、体育館完成、校庭の整地、環境緑化完成。
1977年	昭和52年	○ 3月4日、新校舎落成。 ○ 3月8日、校歌披露式。
1978年	昭和53年	○ 11月16日、全国学校体育優良校表彰。
1988年	昭和63年	○ 8月12日、東北中学校剣道大会個人3位入賞。
1996年	平成 8年	○ 8月23～25日、全日本中学校ソフトテニス全国大会出場。 ○ 12月26日、全日本中学校駅伝競走大会女子出場。
1997年	平成 9年	○ 12月23日、全日本中学校駅伝競走大会女子5位入賞。
1998年	平成10年	○ 8月21日、全国剣道大会出場。 ○ 8月22日、全国柔道大会出場。
1999年	平成11年	○ 3月25日、第二体育館(アリーナ)完成。 ○ 8月22～24日、全国中学校柔道大会出場。 ○ 8月10日、NHK放送コンクール全国大会出場。(アナウンス部門)
2000年	平成12年	○ 8月21日、全国中学校柔道大会出場。(女子個人)
2001年	平成13年	○ 8月21日、全国中学校柔道大会出場。(女子個人)
2002年	平成14年	○ 8月19日、全国中学校柔道大会出場。(女子個人) ○ 10月17日、学校給食で文部科学大臣賞を受賞。
2003年	平成15年	○ 8月、東北中学校水泳・陸上大会出場。 ○ 8月、全国中学校柔道大会出場。
2004年	平成16年	○ 8月、NHK放送コンテスト全国大会出場。 ○ 8月、東北中学校水泳大会出場 ○ 8月、全国中学校柔道大会出場。

1 わたしたちの町  
大熊町

2 原子力発電所  
事故のようす

3 避難先にある  
大熊町のしせつ

4 原発事故前の豊かな  
自然を活用した大熊  
町の農業、水産業

5 大熊町の歴史

6 大熊町の文化財や  
伝統行事

7 きょうしを聞く

8 大熊町小・中学校  
の歴史

9 これからの大熊町

2005年	平成17年	○ 8月、NHK放送コンテスト全国大会出場。
2006年	平成18年	○ 8月、東北中学校バトミントン大会出場。
2007年	平成19年	○ 8月、全国中学校柔道大会出場。
2008年	平成20年	○ 8月、東北中学校陸上競技大会出場。
2009年	平成21年	○ 8月、全国中学校柔道大会・ソフトテニス大会出場。
2010年	平成22年	○ 8月21日、全国中学校柔道大会出場。(女子個人)
2011年	平成23年	○ 4月23日、読書活動優秀実践校文部科学大臣表彰。 ○ 8月24日、全国中学校柔道大会出場。(女子個人) ○ 10月24日、全国ジュニアオリンピック出場。
		○ 8月19日、全国中学校柔道大会出場。(女子個人)
		● 3月11日、東日本大震災・福島第一原子力発電所 事故による全町民避難。 ○ 4月、会津若松市追手町(旧 若松女子高)にて学校 再開。 ○ 4月16日、幼・小・中合同入学式実施。
		○ 8月、全国中学校柔道大会出場。
		○ 10月、OECD東北スクールに参加。
2012年	平成24年	○ 8月1日、全国生徒会サミット2012に参加。 ○ 10月21日、吹奏楽部がTBC・TUF子ども音 楽コンクール東北大会優秀賞受賞。
2013年	平成25年	○ 4月8日、大熊中学校仮設校舎開校式。 ○ 8月、全国生徒会サミット2013に参加。 ○ 10月25日、創立40周年記念式典挙行。
2021年	令和 3年	○ 3月、大熊中学校仮設校舎閉校、解体。旧河東第三 小学校校舎に移転する。
2022年	令和 4年	○ 3月、大熊中学校閉校。 ○ 4月、熊町小学校、大野小学校、大熊中学校の3校 を統合し、義務教育学校、大熊町立学び舎 ゆめの森 が開校する。

(4) 学び舎 ゆめの森

① 学び舎ゆめの森のうた(校歌)とシンボル(校章)

# 大熊町立 学び舎 ゆめの森 の うた

作詞 谷川俊太郎

作曲 谷川 賢作

ひとりっていいな ルンルンルン  
みんなもいいな グングングン  
ひとりもいいけど でも やっぱり みんなといっしょがいいな

ぼくとあなたと  
わたしときみと  
すきなものは ちがうけど  
きれいなものも ちがうけど  
ひとりとひとりとひとりでみんな  
ひとりとひとりとひとりでみんな

ゆめのもりで  
いっしょにまなぶ  
ゆめのもりで  
いっしょにあそぶ

それぞれのあすをさがして  
きょうのおおきなそらのした

ドレミファソラシド  
ドシラソファミレド

ゆめのもりで  
まなんであそぶ



学び舎 ゆめの森  
Manabiya Yumenomori

② 歴史

せいれき 西 暦	われき 和 暦	できごと
2022年	令和 4年	○ 4月、熊町小学校、大野小学校、大熊中学校の3校を とうごう 統合し、義務教育学校、大熊町立学び舎 ゆめの森が ぎむ 開校する。
2023年	令和 5年	○ 4月、大熊町大川原に移転。12年ぶりに町内で学校 を再開する。

# 大熊町の旧教育施設

震災前の学校やしせつのようなすです。現在はべつのしせつに利用されたり、解体されたりした場所もありますね。



【大野小学校】  
→インキュベーションセンター



【熊町小学校】



【大熊中学校】→解体



【大野幼稚園】→解体



【熊町幼稚園】



【大野じどう館】  
→大熊町移住定住しえんセンター



【熊町じどう館】



【大熊町保育所】

1 わたしたちの町  
大熊町

2 原子力発電所  
事故のようす

3 避難先にある  
大熊町のしせつ

4 原発事故前の豊かな  
自然を活用した大熊  
町の農業、水産業

5 大熊町の歴史

6 大熊町の文化財や  
伝統行事

7 きょう土を開く

8 大熊町小・中学校  
の歴史

9 これからの大熊町

資料

# 9 これからの大熊町

## 第二次大熊町復興計画改訂版（抜粋）

「帰町して住み始める人」「避難先から年に数度訪れる人」「新しく町民となる人」など様々な人がいることを前提に、すべての町民が手を取り合い、まちをつくっていけるよう「みんなで歩み出そう、それぞれの一步」をコンセプトに第二次大熊町復興計画改訂版を策定した。（平成31年3月）

**【計画の理念】**

- 避難先および大熊町内での安定した生活
- 帰町を選択できるとともに、町外からも人が来たくなる環境づくり

## 4つの重点施策

**1 町民を取り巻く多様な環境に合わせた生活の支援**

- 町内で取り組むプロジェクト
  - (1) 安心・安全の環境づくり
  - (2) 日常生活を送るための環境づくり
  - (3) 新たなコミュニティの形成
  - (4) 関係人口・交流人口を増やすための取組
- 避難先で取り組むプロジェクト
  - (1) 大熊町の現状に係る情報発信の強化
  - (2) 生活の再建状況にに応じた重点支援
  - (3) 自立した生活の実現に向けた取組

**3 複数のコンパクトな拠点が融合した町土復興**

- (1) 基礎的な生活基盤の確保
- (2) 働く場の確保
- (3) 拠点間の機能連携に向けた取組
- (4) 広域交通拠点等のポテンシャルの活用
- (5) 特定復興再生拠点区域以外での取組
- (6) 町の新たな運営手法の確立

**2 帰町開始に伴う行政拠点の再編**

- (1) 新庁舎の完成を契機とした町内での各種行政サービスの再開
- (2) 支所業務の現状に対応した窓口機能の確保
- (3) 避難先行政サービスを低下させない取組

**4 「多様な主体」と「社会の中での学び」による次世代育成**

- (1) 町内での幼小中一貫教育の実現
- (2) 教育の成果を生かせる場づくり
- (3) 教育を支える人材の確保・育成
- (4) 新たな取組へのチャレンジと継続する取組
- (5) 大熊のDNAを残し、新しい文化を紡ぐための取組

あなたは、どんな大熊町にしたいですか？

-----

-----

-----



## (1) 避難指示区域の状況

平成31年4月10日、大川原地区(居住制限区域)と中屋敷地区(避難指示解除準備区域)の避難指示が解除され、震災と原発事故から8年余りの時間を経て、ようやく古里の一部を取り戻しました。令和元年5月には、大川原復興拠点に整備した町役場新庁舎での業務が始まり、町復興の足がかりとして各課題への取り組みを加速させています。令和2年3月5日、JR大野駅周辺と県立大野病院敷地などの避難指示が解除されました。町内の帰還困難区域で避難指示が解除されたのは初めてのことです。あわせて、下野上・野上地区の一部で立入規制が緩和され、通行証なしで立ち入りができるようになりました。また、JR常磐線が3月14日に全線再開し、大野駅も同日、利用再開されました。これにより、新たな人の流れが町内に生まれています。

## (2) 復興への取組

JR大野駅西口でにぎわいや交流を生み出す仕掛けづくりを検討しています。その一環として、エリアの北端に産業交流施設を整備します。町内に事業の拠点を置きたい事業者向けのオフィスで、多様な業種の入居事業者が交流して新たな雇用の場を生み出すことを目指します。一般向けに開かれた多目的スペースにより、企業と町民の交流を図ります。オープンは令和6年12月です。このほか大野駅西交流エリアには商業施設、広場、社会教育複合施設を整備する計画があります。



産業交流施設



JR大野駅西口エリア(大熊町HP)

(3) 大熊町の未来へみらい（おおくま通信 2022年2月号より）

大熊町の理念りねん

1 ひなん 避難先および大熊町内での安定した生活

「大熊町民」 = みんな 避難先で生活つづを続ける町民

きかん  
帰還する町民

きょじゅう  
新たに町に居住する町民

いずれの町民も、それぞれの居住先で必要な行政サービスを受けながら、安心して暮らしていけることがこの町の大前提です。

2 せんたく 帰町を選択できるとともに、町外からも人が来たくなる環境づくり

ひなん 避難先においても「帰れるふるさとがある」ことが大切だと考えています。引き続き、町土の回復を進めます。

また、新しいまちづくりには内外からの理解と参画が必須です。全国・世界のみなさんと世界に

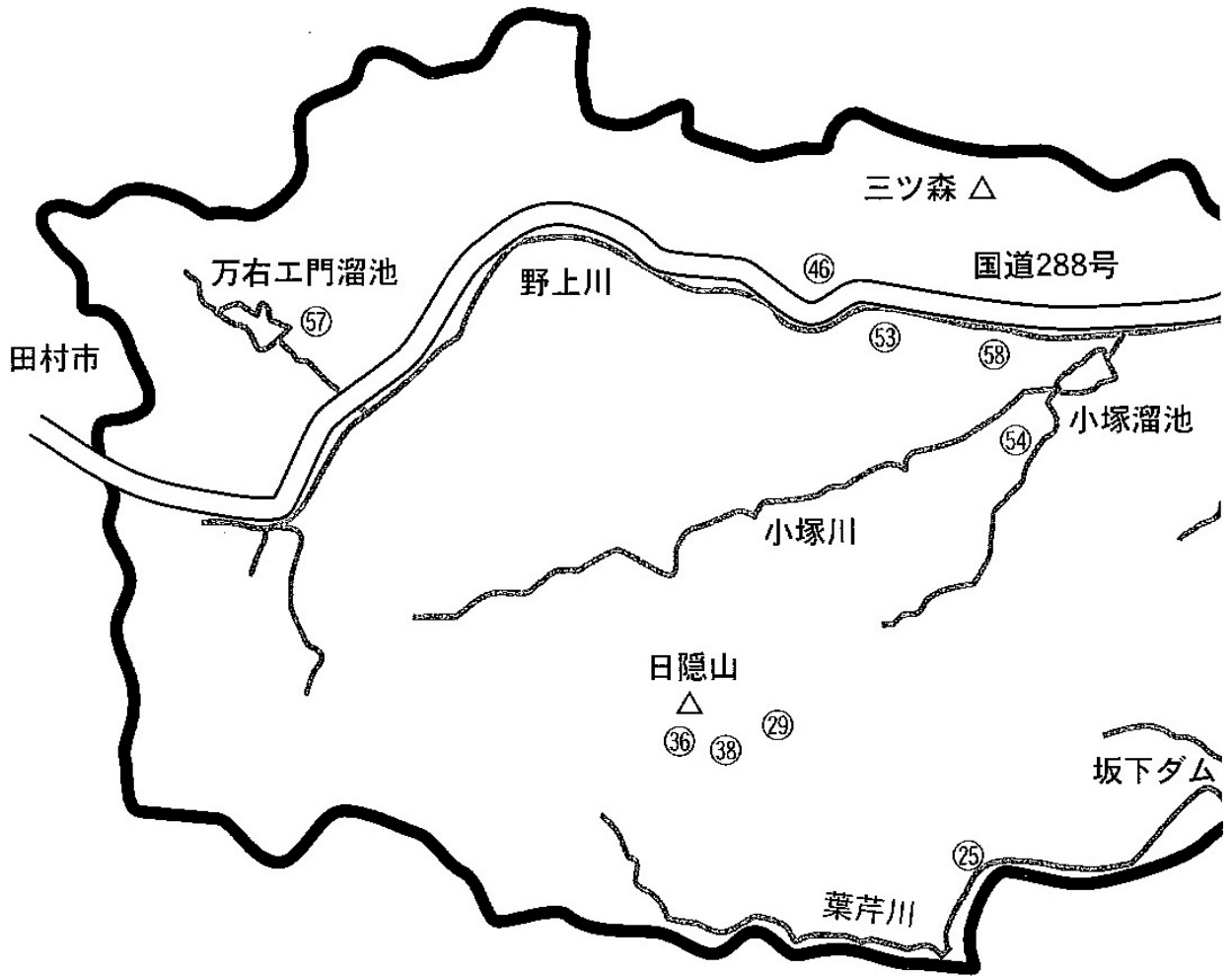
れい 例のない大熊町の経験けいけんを広く共有きょうゆうし、新しい価値かちの創出そうしゅつを目指します。



# 資料

# 大熊の民話地図

大熊町図書館『おおくまの民話』2007年より



- |                                  |  |   |   |
|----------------------------------|--|---|---|
| ① 岩舟の湯<br><small>いわふね ゆ</small>  | ⑩ 鶴が森・亀が森<br><small>つる かめ</small>      | ⑱ 風呂場の大地震<br><small>ふろば おおじしん</small>       | ⑲ 丹蔵と長い刀<br><small>たんぞう かなな</small>     |
| ② 火のみ塚<br><small>ひづか</small>     | ⑪ 一反田物語<br><small>いっただんだ</small>       | ⑲ 助宗明 神物語<br><small>すけそうみょうじん</small>       | ⑳ 地蔵坂の鬼ばばあ<br><small>ちぞうざか おに</small>   |
| ③ 坊一さま<br><small>ぼうち</small>     | ⑫ 「むり」がおっかねえ<br><small>あみだによらい</small> | ⑲ えんちようおしょう<br><small>えんちようおしょう</small>     | ㉑ 正直者の丹蔵<br><small>しょうじきもの たんぞう</small> |
| ④ 落陽物語<br><small>らくよう</small>    | ⑬ 阿弥陀如来物語<br><small>あみだによらい</small>    | ⑲ おら はま<br><small>おら はま</small>             | ㉒ 厄病神<br><small>やくびょうがみ</small>         |
| ⑤ 切れる斧<br><small>おの</small>      | ⑭ 鼻どり地蔵 (熊町)<br><small>はな じぞう</small>  | ⑲ たかどおる<br><small>たかどおる</small>             | ㉓ だきつき石<br><small>だきつきいし</small>        |
| ⑥ 花咲翁さん<br><small>はなさかじい</small> | ⑮ 昌玄塚<br><small>しょうげんづか</small>        | ⑲ ひふうへいどうじがはら<br><small>ひふうへいどうじがはら</small> | ㉔ 日隠山の山賊<br><small>ひかくのやま さんぞく</small>  |
| ⑦ 弁天様の話<br><small>べんてんさま</small> |  | ⑲ びじよな<br><small>びじよな</small>               | ㉕ 木の根坂藤兵衛<br><small>きねざかうべい</small>     |
| ⑧ 猿地蔵<br><small>さるじぞう</small>    |  | ⑲ おおがわら すすく<br><small>おおがわら すすく</small>     | ㉖ じじ石とばば石<br><small>じじいし とばばいし</small>  |
| ⑨ 桃太郎<br><small>ももたろう</small>    |  | ⑲ せいねん<br><small>せいねん</small>               | ㉗ 甚助の伊勢参り<br><small>じんすけ いせまい</small>   |
|                                  |  | ⑲ 大川原を救った三人<br><small>おおがわら すすく</small>     | ㉘ 論山まつり<br><small>ろんざんまつり</small>       |
|                                  |  | ⑲ の青年<br><small>のせいねん</small>               | ㉙ 南山の馬鹿婿<br><small>みなみやま ばかむこ</small>   |
|                                  |  |   | ㉚ 上の小屋・下の小屋<br><small>かみ こやしむ</small>   |
|                                  |  |   | ㉛ 長沢の七不思議<br><small>ながさわ ななふしぎ</small>  |
|                                  |  |   | ㉜ 飛付観音物語<br><small>とびつきかんのん</small>     |
|                                  |  |   | ㉝ 満開坊物語<br><small>まんかいぼう</small>        |

1 わたしたちの町 大熊町

2 原子力発電所 事故のようす

3 避難先にある 大熊町のしせつ

4 原発事故前の豊かな 自然を活用した大熊 町の農業、水産業

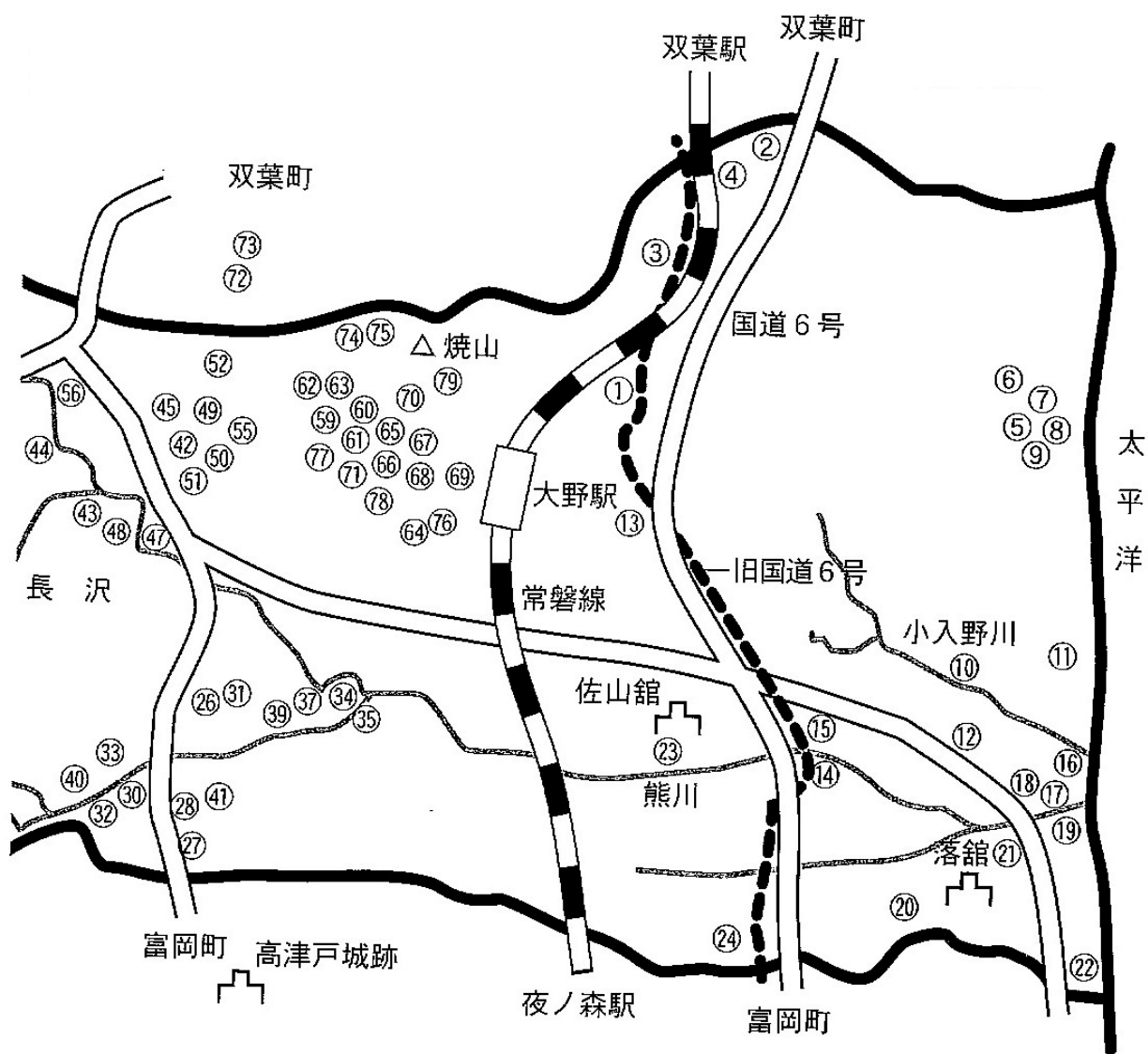
5 大熊町の歴史

6 大熊町の文化財や 伝統行事

7 きょうとを歩く

8 大熊町小・中学校 の歴史

9 これからの大熊町



- |                    |                              |                                      |
|--------------------|------------------------------|--------------------------------------|
| ④⑥ たまの湯発見物語        | ⑥⑩ ひやくしょうきんたろう<br>百姓三太郎      | ⑦⑩ くまごろうめいげん<br>熊五郎の名言               |
| ④⑦ 熊川の主争い          | ⑥① なこそせき<br>勿来の関             | ⑦① ぼしんせんそうよわ<br>戊辰戦争余話               |
| ④⑧ 蛇ばみが淵           | ⑥② ていざう<br>貞蔵のつづみ            | ⑦② はぐるだいいじゃ<br>羽黒の大蛇 (I)             |
| ④⑨ よしだよしだ<br>吉田と吉田 | ⑥③ さゆしゆ様<br>サユシュ様            | ⑦③ はぐるだいいじゃ<br>羽黒の大蛇 (II)            |
| ④⑩ みがじぞう<br>身代わり地蔵 | ⑥④ かなやちようじゃ<br>金谷長者          | ⑦④ おたか森<br>おたか森                      |
| ④⑪ うばた<br>姥田の池     | ⑥⑤ かなや<br>金谷きつね              | ⑦⑤ だんごろ山<br>デンゴロ山                    |
| ④⑫ はなどり地蔵 (野上)     | ⑥⑥ やごろうばやし<br>弥五郎林           | ⑦⑥ おおぼんこぼんよなかなやちようじゃ<br>大判小判が夜泣き金谷長者 |
| ④⑬ めあらゆ<br>目洗いの湯   | ⑥⑦ のがんぼらせんごくえいゆう<br>野上原の戦国英雄 | ⑦⑦ おちゆう婆さん<br>オチョウ婆さん                |
| ④⑭ さるぎ<br>さる酒      | ⑥⑧ ながみね<br>長峰ばあさん            | ⑦⑧ はなかじぞう<br>鼻欠け地蔵                   |
| ④⑮ どうそじん<br>道祖神    | ⑥⑨ きもだめし<br>きもだめし            | ⑦⑨ よめいし<br>嫁石物語                      |
| ④⑯ うそつきじいさん        |                              |                                      |
| ④⑰ くらべ石            |                              |                                      |
| ④⑱ ばくち石            |                              |                                      |
| ④⑲ また<br>又さんのそろばん  |                              |                                      |

この本には、④⑩の「論山まつり」をのせました。その他の民話に興味を持った人は、『おおくまの民話』(2007年 大熊町図書館編集発行) を読んでみましょう。

た。

その年の八月、三春藩と相馬藩の百姓らは、江戸の評定所※15に召し出され、判決が下ることになりました。

「論山争いの一件に關し、判決を申し渡す。相馬藩の百姓作太夫ら七名の言い分を認める。三春藩の百姓、十三郎ら三名は敗訴とする」

こうして三春藩は負けてしまいました。

その後、三春藩では吉野田和窪の境も無くなってしまうことから、今度は磐城平藩※16の川内村との訴訟も起きてしまい、これも敗訴することになってしまいました。

いろいろと訴訟問題に力を尽くしてきた名主の十三郎は、とうとう江戸で切腹してしまいました。なんともむごいことですが、判決には文句も言えないところです。

それから相馬藩では、評定所に向いた下野上村の熊三郎工門、大川原村の石田十右工門、熊村の佐藤善次、大川原村の志賀治右工門、野上村の七左工門らほか名主、組頭八人にご褒美を下さったそうです。

それに、大川原村の村人は、この論山事件に一丸となって尽力したということ、相馬藩から特別に百五十六町歩※17の集落共有林をいただいたのでした。

この事件があつてから、大川原の名主の石田十右工門の家では、毎年、秋の収穫が終わった後に、「論山祭」という祭りごとをやってきました。

事件にかかわった人たちの子孫を招待して、村の氏神様に参拝して、ご先祖様への感謝と供養を行い、さらにその時には、切腹した古道村の十三郎の子孫も招き、一緒に供養したそうです。

『おおくまの民話』（二〇〇七年 大熊町図書館発行）より

（一部改変）

- ※1 江戸時代に大熊町を含めた浜通り北部を治めていた藩
- ※2 江戸時代に主に田村郡域を治めていた藩
- ※3 現在の田村市都路町古道
- ※4 江戸時代の村の役人
- ※5 現在の浪江町小丸字畑川
- ※6 現在の浪江町請戸漁港
- ※7 現在の相馬市中村、藩主相馬氏の居城中村城があつた
- ※8 江戸幕府の事務を執り行う役所
- ※9 山論のこと、山の利用権をめぐる起る争い
- ※10 現在の川内村下川内字吉野田和鷹匠を尊んだ呼び方
- ※11 江戸時代初頭まで流通していた貨幣
- ※12 現地調査
- ※13 現在の最大熊町野上字湯の神にある温泉
- ※14 江戸時代の最高裁判所
- ※15 江戸時代に浜通り南部（富岡町以南）を治めていた藩
- ※16 約一・五平方キロメートル、東京ドーム33個分

- 1 わたしたちの町 大熊町
- 2 原子力発電所 事故のよつす
- 3 避難先にある 大熊町のしせつ
- 4 原発事故前の豊かな自然を活用した大熊町の農業、水産業
- 5 大熊町の歴史
- 6 大熊町の文化財や伝統行事
- 7 きょう土を開く
- 8 大熊町小・中学校の歴史
- 9 これからの大熊町

# 論山まつり

むかし。

こんな話がありました。それは元禄時代と言って江戸が栄えていたころにあった、相馬藩※<sup>1</sup>と三春藩※<sup>2</sup>の山の境界争い<sup>3</sup>の話です。

阿武隈の山あい<sup>4</sup>に古道村※<sup>5</sup>という村がありました。ここは、三春藩のいちばん隅っこの村で、米はわずかしか取れず、村の人々はみんな山仕事<sup>6</sup>をして暮らしていました。

ある時、

「てえへんだ！てえへんだ！おらほの山の木イ、伐られでつとオ」

「相馬藩のやづらが木イ伐つて運んでつとオ」

「早く名主様※<sup>4</sup>さ言って、止めでもらうべ」

山の人がそう言うて騒いでものですから、さあ、村中大騒ぎになりました。そこで名主が相馬藩の役人に掛け合つたのですが、まったく聞き入れてもらえませんでした。

相馬藩では屋敷の広間の増築のために材木が必要だったため、千二百人もの人夫を出して、畑川※<sup>7</sup>あたりの木を伐り、川に流し、請戸の港※<sup>8</sup>に集めて船で相馬中村※<sup>7</sup>に運んでいたのです。

そこで、古道村の名主たちは見るに見かねて、

「木イ伐つた山は三春藩の山であるがら、今後、勝手に伐られでは困る」

と、相馬藩に抗議の書状を送りつけたのでした。ところが、

「相馬藩では前からここで木を伐っていたのだから、この山は相馬の領地だ。」

と、相手にしませんでした。

それでも、三春藩ではたびたび書状を送り、一方、相馬藩からはなんの返事も来ませんでした。

そこで、古道村の名主十三郎と伝十郎らは、年も押しせまったころ、今度は江戸の奉行所※<sup>8</sup>に書状を携えて訴えることにしました。

江戸奉行に訴えることになったものですから、この争いは百姓の山争い<sup>9</sup>ではすまず、三春藩と相馬藩の論山争い※<sup>9</sup>になってしまったのです。

三春藩の言い分はこうです。

「三春藩と相馬藩の境は、吉野田和川※<sup>10</sup>から畑川※<sup>6</sup>までだ。その証拠には、昔この南の赤ひそ山の小ささら石※<sup>11</sup>という所で、銅屋建てて鉄ふいでいたし、ほの跡は今でも残つて、子孫も住んでる。ほれがら、竹の縊りどいうどこさ、鷹の巢※<sup>12</sup>があつてな、ほごで巢下ししては、会津の御鷹師※<sup>11</sup>さ差し上げていたんだがら、まちげえね」

また、相馬藩側では、

「いや、ほうではねえ。境は前がら、平七峰から絵馬ヶ鼻※<sup>13</sup>まで、雨が降つて西に流れる所は三春領、東に流れる所は相馬領と決まつてる。小ささら石で鉄ふいでいだというが、これは野上村の者が永楽銭※<sup>12</sup>三百枚とつて鉄ふかせていだんで、古道の者がやつていたんではねえ」とか、

「この山がら鷹の巢はとつたごどねえ」と言っていました。

こうやって、いつまでも言い合つていてらちが明かず、とうとう江戸奉行に訴えることになりました。

そうしたら、今度は江戸表の役人が現場に検視※<sup>13</sup>に来られることになり、検視の役人様の御一行は、百人もの供を連れただがかりなものだったそうです。

そうして、両方の藩に公平になるようにと、宿のことから、茶菓子<sup>14</sup>の果てまで取り決めがあつたという事です。

元禄十二年の三月、いよいよ検視の御一行様が来られました。まず、野上村の玉の湯※<sup>14</sup>に到着され、次の日から山検分にかかられました。それはそれが大がかりなもので、山に入つて十日くらいかかったそうです。

やがて、検分は終わつて、御一行は会津方面に向かつて行かれました。





# 郷土学習資料集第二次改訂委員名簿

	氏名	所属名
委員長	増子 啓信	学び舎 ゆめの森
委員	鈴木 健太	学び舎 ゆめの森
委員	坂本 彩夏	学び舎 ゆめの森
委員	森 幸彦	大熊町教育委員会
委員	吉田 清宏	大熊町教育委員会
校正責任者	志賀 仁	大熊町教育委員会

監修 大熊町教育委員会教育長職務代理者 松岡 保夫

令和5年3月30日 発行

発行者 大熊町教育委員会

編集者 大熊町郷土学習資料集第二次改訂委員会



名 前	
-----	--